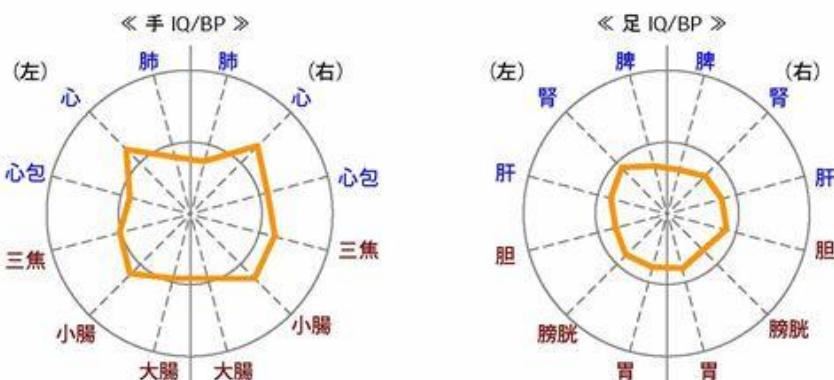
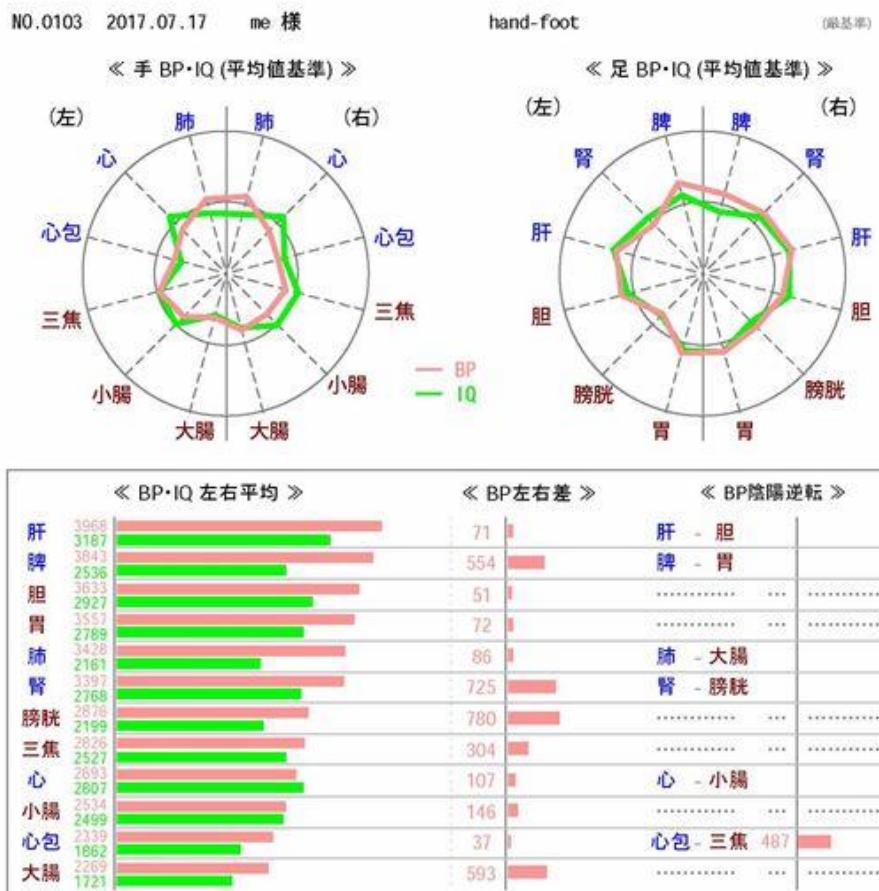


簡易経絡測定装置(A-BI, E-BI2, EBI5) の測定チャートが新しくなりました。

基本チャート①



・BP 値+IQ 値の大小を、経絡の虚実と考えています。

経絡測定装置は、人体皮膚にパルス電圧を印加して細胞間質液に流れる電流値や電荷量を測定していますが、AMICA 社の資料の説明では次のようにになります。

細胞間質液に流れる電流値や電荷量は、細胞間質液の分量やナトリウムイオンなどの電解質成分に左右されます。

BP 値は、細胞間質液の電解質成分濃度に相当し「成分の虚実」、IQ 値は、電解液の分量の過不足に相当し「代謝の虚実」というように 2 つ分けて考えられています。

BP 値は実際の被験者で、その値が大きいときその経絡の「実」の症状がよく出現し、反対に小さいときは「虚」の症状がよく出現します。古典的な経絡の虚実と考えてよいようです。

IQ 値は、電解液の過不足なので、不足すると発熱作用が低下して「冷え」を起こすというように恒常性維持機能を左右しているようです。

そこで、測定チャートでは、BP 値と IQ 値との比率 IQ /BP 値をグラフ化しています。

例えば、この IQ /BP 値が他の経絡と比較して小さい場合、この経絡機能が停滞していると診ることができます。そして、そんな経絡に鍼灸刺激する場合は「瀉法」よりも「補法」がよいと考えます。

- ・平均基準

BP 値と IQ 値の測定点(井穴)は、それぞれ 24 点(12 経×2)あります。

上記チャートの上段と下段の 4 つの円形チャートは、24 点の平均値を求めて、その平均値に対する個々の経絡の測定値を比率で表記していいます。

- ・診断ポイント

被検者の症状として出現しやすのは、次の 3 点です。

①BP 値の大きい経絡=実

②BP 値の小さい経絡=虚

③BP 値の左右差の大きい経絡…「不安定」経絡と表現することもあります。

昔の地熱感度測定(赤羽法)のように左右差が異常のひとつのパターンと考えます。

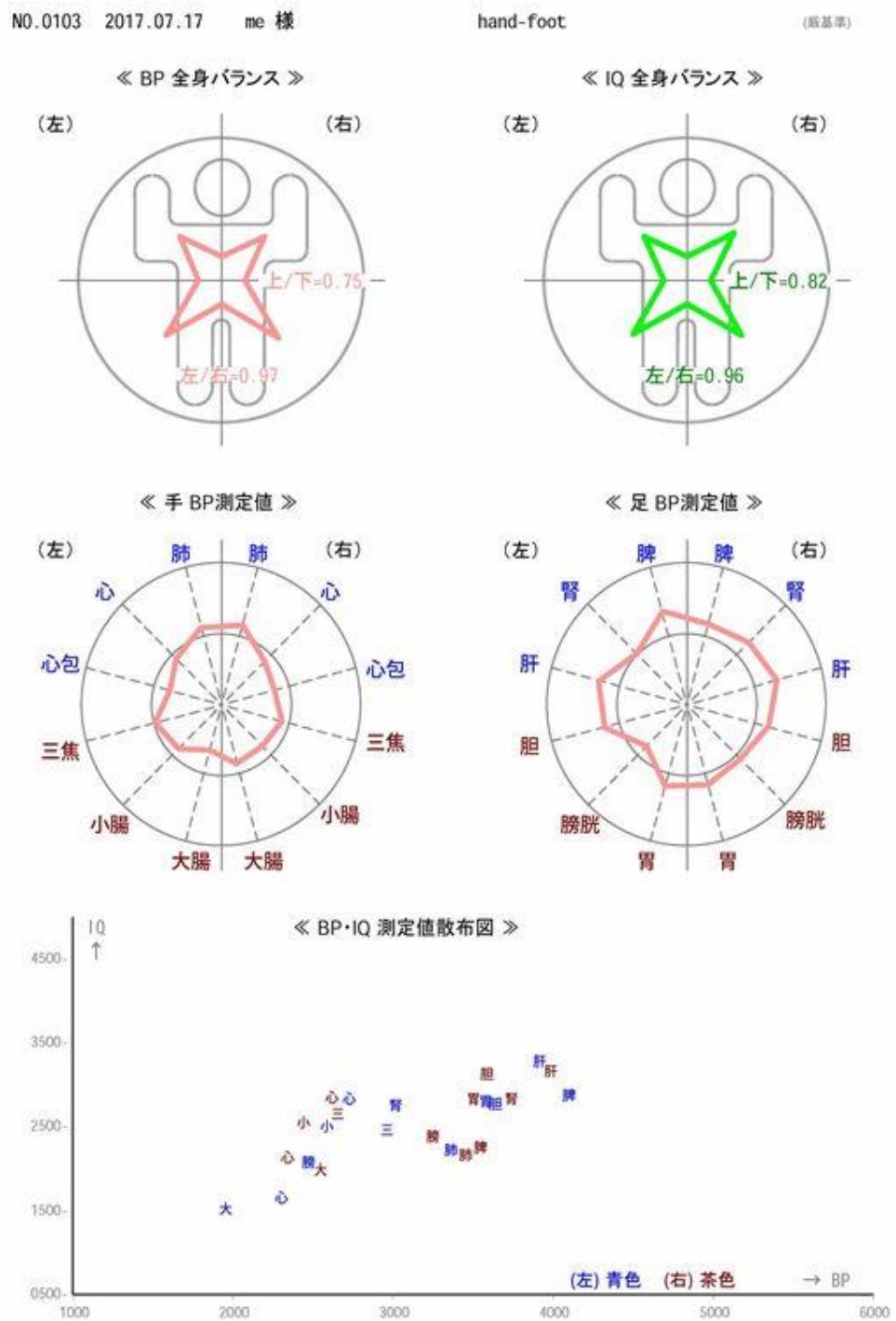
④陰陽逆転経絡

正経 12 経には、陰陽 6 経という組み合わせがあります。

AMI 装置の発明者である本山氏は、それぞれの組み合わせにおいて健常者の BP 値は、陰>陽になることを発見しました。このことは、古典の書物にも書いてあるそうです。

陰<陽関係になるのが「逆転」で、実際の被検者で測定してみると、高確率で症状が出現しています。

基本チャート②



- 上下のバランスは、身近なところでは、冷えやのぼせ等の体質診断になります。
- 測定値は、一般に気温が低い冬場に低下しますが、老年者や衰弱した人も低下します。
また、数値が低くても少し運動すると、すぐに上昇します。
- 分散図は、BP 値と IQ 値とが比例関係を見ます。

基本チャート③ データリスト

N0.0103

【データ一覧】

		左	右	差	平均	左%	右%	平均%	差%
① 肺	BP	3385	3471	86	3428	1.087	1.114	1.101	0.292
	IQ	2192	2130	62	2161	0.877	0.852	0.864	0.269
② 大腸	BP	1972	2565	593	2269	▽0.633	0.823	▽0.728	◇2.018
	IQ	1491	1951	460	1721	0.596	0.780	0.688	2.002
③ 心包	BP	2320	2357	37	2339	▽0.745	▽0.757	▽0.751	0.125
	IQ	1621	2103	482	1862	0.648	0.841	0.745	2.097
④ 三焦	BP	2978	2674	304	2826	0.956	0.858	0.907	1.034
	IQ	2433	2620	187	2527	0.973	1.048	1.011	0.813
⑤ 心	BP	2746	2639	107	2693	0.882	0.847	0.864	0.364
	IQ	2798	2816	18	2807	1.119	1.127	1.123	0.078
⑥ 小腸	BP	2607	2461	146	2534	0.837	0.790	0.813	0.496
	IQ	2476	2522	46	2499	0.991	1.009	1.000	0.200
⑦ 脾	BP	4120	3566	554	3843	△1.323	1.145	△1.234	◇1.885
	IQ	2846	2226	620	2536	1.139	0.890	1.015	2.698
⑧ 肝	BP	3932	4003	71	3968	△1.263	△1.285	△1.274	0.241
	IQ	3242	3131	111	3187	1.297	1.253	1.275	0.483
⑨ 胃	BP	3593	3521	72	3557	1.154	1.130	1.142	0.245
	IQ	2775	2803	28	2789	1.110	1.121	1.116	0.121
⑩ 胆	BP	3658	3607	51	3633	1.174	1.158	1.166	0.173
	IQ	2749	3104	355	2927	1.100	1.242	1.171	1.545
⑪ 腎	BP	3034	3759	725	3397	0.974	1.207	1.091	◇2.467
	IQ	2734	2802	68	2768	1.094	1.121	1.107	0.296
⑫ 膀胱	BP	2486	3266	780	2876	0.798	1.049	0.923	◇2.654
	IQ	2039	2359	320	2199	0.816	0.944	0.880	1.392

【BP陰陽差】

肺 - 大腸	1159
心包 - 三焦	□ -487
心 - 小腸	159
脾 - 胃	286
肝 - 胆	335
腎 - 膀胱	521

【平均】

BP	3113
IQ	2498

【手/足】

BP	0.756
IQ	0.828

【診断】

△	BP高(実)
▽	BP低(虚)
◇	左右差大(不安定)
□	陰陽値逆転(変調)
↑	興奮(変調初期)
↓	沈静(慢性化)

【標準偏差】

BP	0.193
IQ	0.179

【左/右】

BP	0.972
IQ	0.962

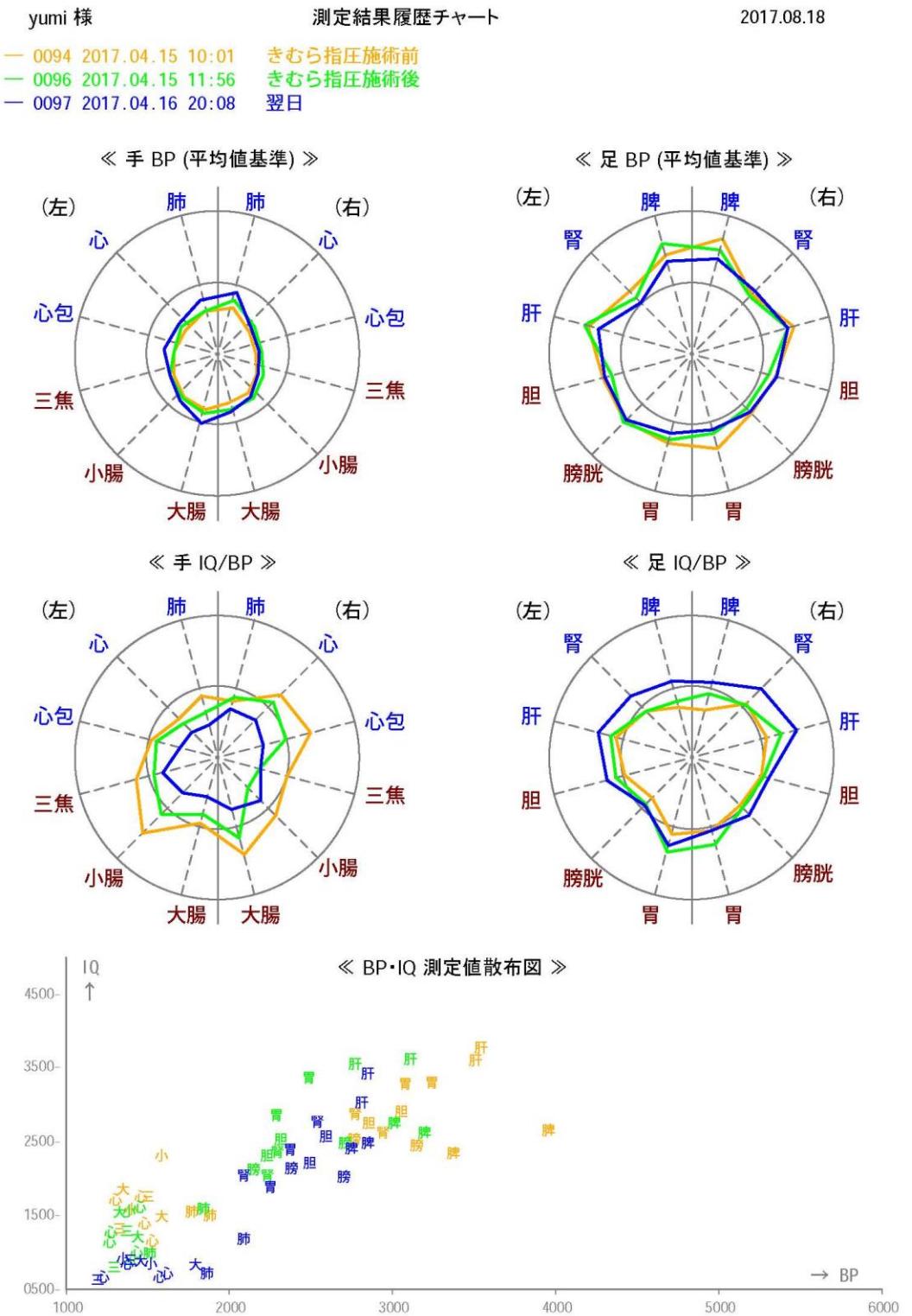
【ポイント解説】

	BP	IQ
経絡別	虚実の指標	—
左右差	該当経絡の変調。多くは一時的なもの。	—
陰陽差 逆転(□)	該当経絡の変調。恒常的で多くの場合、発症を自覚している。	—
平均	気(生命エネルギー)の充実度。 若年>老年・虚弱者。健常者>病人。	免疫・生体恒常性維持機能の活性度。 発症初期>炎症中>アレルギー体質者>慢性化・機能低下。
標準偏差	発病初期など免疫反応が活発なとき大きくなる。 測定操作が乱雑なときにもバラツキのため大きくなる。	同左。 BPの場合よりも長期間かけて変化する。
手/足	1が理想値。	1が理想値。
左/右	1が理想値。	1が理想値。

※上記「診断」は「経絡・臓器機能測定について」(本山博著 宗教心理出版)の「各経絡一臓器の機能異常、低下、不安定を決める基準」に準拠しています。「ポイント解説」は、同氏の多数の著書の中の説明文を引用したものです。語句変更したところもあります。

- 【診断】は基準値が複数あって最適な基準値が不明です。
- 【ポイント解説】の内容は古いままで、新情報が不足しています。
- 【標準偏差】は病状の発症初期で大きく、慢性化あるいは病気快復で小さくなるそうですが、診断するには、まだデータ不足です。

履歴チャート



・うちの娘(25歳)の測定事例です。検診で「軽い脊柱側弯症」と診断されました。試しに経絡指圧受けました。

1回きりだったので、効果のほどは分かりません。